

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102279		
法人名	社会福祉法人春生会		
事業所名	希望山荘		
所在地	宮崎県宮崎市郡司分乙1590番地1 (電話) 0985-55-2006		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月23日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】(平成21年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年3月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年6月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山内ファミリークリニック、青山歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは宮崎市街からやや外れた大きな新興団地の一画で、山を切り開いて建てられた団地内のゆるやかな坂を登り詰めた緑豊かなゾーンに建てられている。隣接する同法人の小規模多機能型居宅介護希望楽苑の職員との交流を深めながら、常にサービスや職員の質の向上に取り組んでいる。地域密着型サービスにおけるグループホームの特徴や役割を生かしながら、利用者の喜びと安心、安全、穏やかな生活をめざし、職員は丸となり研さんをしている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	鍵をかけないケアについては、徘徊をアセスメントし行動パターンを分析し、職員と近隣住民の協力で改善が図られている。終末ケアについても、家族、医師及び医療機関、看護師、職員との話し合いを重ね、参考事例や資料等を集め情報を共有している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員は、評価する機会を与えられることが、支援の見直しをする良い機会と受け止めている。全職員が全項目を自己評価し検討をしている。毎年の積み重ねが改善へとつながり、利用者の喜んでいただけるケアに反映できると理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回開催している。行政関係者をはじめ地域代表者、家族代表者、有識者からは防災、地域交流、自己評価などホームの重要な改善項目が議題として取り上げられるなど、改善にむけて意見交換が行われている。そのことを、管理者と職員はさらに検討し支援に反映させている。また、今後は、地域の区長、医療関係者にも参加を促し会議の充実を図る意向である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書はもとより、玄関には、外部への苦情申し立ての機関が掲示されている。また、意見や苦情、不安が言いやすい職員の対応や雰囲気づくりに取り組み、ホーム内・外研修に、接遇研修等を取り入れるなど、常に運営へ反映させる姿勢と努力がうかがえる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民とのつき合いでは、あいさつを交わし合い、家庭菜園で収穫した野菜や果物を頂いたり、地区の行事に参加し、子供達や住民とふれあう機会をつくっている。また、ホームの行事への参加チラシを配布し、バーベキューを楽しんだり、保育園の子供たちの来訪で利用者との心豊かな交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「安心して、穏やかに、明るく、楽しい居場所」を目指し、個人のペースを尊重した希望山荘独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、勉強会を重ねながら、個人のペースを尊重した理念を作りあげている。ミーティングでは、理念を唱和し、日々の支援に生かされるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合や公民館の行事に参加・交流し、ホームの理解を得るよう努めている。老人会との情報交換や地域住民とは、徘徊のある利用者の連絡や誘導などの協力も得ているが、まだ積極的な交流には至っていない。	○	地域の会合や行事への参加のみではなく、地域の区長、近隣の住民、民生委員との協力関係を深め、災害時の協力依頼にまで踏み込んだ関係の構築を検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している。評価の結果は、職員や運営推進会議において報告され見直し活用されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や外部評価の取り組み等について報告検討がなされている。課題となった項目について、参加者それぞれの職業上からみて出された意見は、利用者のサービス支援に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在センター方式のアセスメントを検討中で、資料の提供やアドバイスを得ている。管理者は、行政との連携を保ち、いつでも気軽に相談でき、アドバイスが得られる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が月平均2回から3回来訪されるので、その時に、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。また、定期的にホーム便りを発行し、関連施設の行事なども紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書やホームの玄関には外部者・内部者向け苦情申し立ての機関が掲示されている。法人内では、第3者委員会を年2回開催し苦情・相談を検討し全職員で対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する際は、家族や利用者には十分説明し、ダメージへを防ぐよう配慮がなされている。また、運営者は、異動や離職を抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内・外の研修が受けられるよう段階に応じた年間計画を立てている。研修後は、復命書を勉強会に活用し、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。年3回交流する機会があり、勉強会や相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や内定者には、見学時に利用者の皆さんとお茶を共にして、ホームの雰囲気に徐々になじめるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一緒に過ごしながら利用者の豊かな人生経験に触れて元気や生活の知恵を頂いたり、喜怒哀楽をともにし、支えあう関係をしっかりと築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支えあう生活を通して、また、語りかけから、一人ひとりの思いや希望が把握されている。ホームの理念、「話を良く聞いて、ありのままを受け止め、心に寄り添うケア」が実践されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成では、利用者、家族、介護担当者、看護師等の意見や日々の記録が取り入れられている。利用者が心穏やかに暮らすために随時、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月で見直しをしている。利用者に異常が見られたり、バイタル記録の変化や介護担当者が異変を感じた場合は、関係者との話し合いにより随時見直し、介護計画を変更している。介護計画書は、誰にでもわかるように作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じ、通院介助、外出介助、墓参り等、事業所の多機能性を生かした柔軟な支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は、本人、家族の希望が尊重されている。通院は基本的に家族がするが、受診内容の把握のため医師の指示や指導は、看護師が受けている。各利用者の主治医と事業所、看護師は、適切な医療を受けられるよう何でも話し合える関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期支援について家族との話し合いの結果、看取りの希望が強く、この要望を基に、家族、医師、看護師、関係者と検討し看取り支援マニュアルが作成された。緊急時・介護マニュアル、事前説明書、緊急時対応希望書、看取りケア説明書等を医療機関の協力を得ながらの作成であり、全員が方針を共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけは、その人の誇りや人格を尊重するものであるよう、入浴、排泄の誘導には、日頃から注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その人の希望や思いに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食とは、命であり、人にとっては楽しみ、生き甲斐である。楽しい食事になるよう希望献立を取り入れたり、利用者個々の力量に合わせた調理を職員とともにやっている。食事中は、献立や食材をめぐる話が弾み楽しい団らんとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴で午前、午後いずれかの希望時間に沿った支援をしている。バイタルチェックで支障がある場合や、本人の変更希望のある時は、随時、入浴日の変更をし、いつでも入浴を楽しめるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、特技や趣味を引き出し、利用者同士の交流を深める支援をしている。料理、歌、手芸、塗り絵や掃除とその人の力量に合わせた役割の場づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	団地内のスーパーや公園、ゲートボール場で買い物や散歩を楽しんだり、ホームの裏の雑木林を散策したり、時にはドライブで遠出を楽しむ支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊者の危険防止の意味で施錠した期間があった。玄関開放を前提に、利用者との向き合い方、対応の仕方を全職員で真剣に検討を重ねた結果、日課の流れの見直しや、職員間の目配りと連携で、鍵をかけないケアに至っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成している。月1回ホーム内だけの防災訓練をしているが、今年度は消防署や地区住民の協力を得ての訓練を実施している。	○	今後は夜間の1人勤務時の災害を想定し、利用者を安全に避難誘導することができるように、近隣の住民との交流を密にし、協力体制をマニュアルに取り込みながら、災害対策の体制を整える事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士が必要栄養量を設定し、それに基づき職員が、摂取量や水分量を記録して健康管理をしている。また、口腔機能に応じた食事形態が提供されている。利用者の希望で献立は柔軟に変更され、手作りのおやつや季節の食材が取り入れられた楽しい「食」の支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると中央に多目的ホールが見渡せ、ゆったりとしたスペースが取られている。その周囲を囲むように厨房と居室があるため、利用者は、居室を出れば、いつでもだれかと顔を会わせることができ、多目的ホールを利用しての食事や手芸、保育園児の来訪を楽しんでいる。天井も高く、空調設備も静かで居心地良く過ごせる支援をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が昔から使い慣れた物や好みの物が置かれ、居心地良く暮らせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。